

陳 情 文 書 表

(文化市民局)

受 理 番 号	9 2 9	受 理 年 月 日	令 和 5 年 9 月 26 日
件 名	市立芸大のグラウンド整備や文化・芸術の拠点としての芸大跡地の活用		
要 旨	<p>市立芸大がこの10月に下京区に新築移転する。芸大の移転について新聞報道もされている。幾つか特に気になり、また、早急な解決が望まれることを陳述する。</p> <p>第一に市立芸大のグラウンドのことである。京都新聞9月19日付けでも報道された。新しいキャンパスのグラウンドは、洛西キャンパスの3分の1しか広さはない。また、新キャンパスのグラウンドは3階建ての建物の屋上にあり、すぐ横をJRの在来線が走っている。ボール競技は制限せざるを得ない状況にある。サッカーや野球、ラグビーといった競技はそもそも本格的な練習が難しく、体育の授業も球技以外へ変更するとのことである。来年で創部65周年を迎えるラグビー部も存続が危ぶまれていると言う。</p> <p>さらに、隣接する美術工芸高校との共有である。体育の授業を含めて大学側がグラウンドを使えるのは、日中は週2日、放課後は午後6時以降という。こうした状況に以前から要望書が出されているにもかかわらず、解決がなされていないのが現状である。</p> <p>私の子供は京都市立堀川高校の卒業生である。堀川高校も四条堀川の校舎そばにグラウンドはなく、遠く離れた広沢池の近くにグラウンドを持っている。普段は野球部が放課後や休日に利用している。全校生徒は年に一度、運動会の当日に利用している。運動会の練習は、大縄跳び等を校舎の通路の片隅で練習していたのが印象的である。この状況の改善も望むが、年に一度だけでもぶっつけ本番でリレーもできる運動場があったことは良かったと思っている。</p> <p>芸大も洛西のグラウンドの活用を検討していただきたい。洛西の芸大跡地を公募型プロポーザルで選定するとのことであるが、跡地をどう活用していくかを今一度考え直していただきたい。芸大跡地にはまだ使える建物や施設がたくさんある。それらの有効活用をお願いしたい。一括して処分してしまうのではなく、グラウンドは芸大生が使ったり、施設を芸大生やその院生が活用する、芸術家の拠点などにしてはどうか。</p> <p>京都市は今、世界一旅行に行きたい都市と言われている。京都にはすばらしい神社仏閣がたくさんある。しかし、それだけではなく、新しい文化・芸術を発信する、発信できるまちとしても、世界に打ち出していけるのではないかと。それが洛西にある芸大跡地である。</p> <p>全米一美しいまちと言われるセドナは、高さ制限(3階まで)、色の統一等がなされた美しいまちであるが、そこに300人以上のアーティストが住み、80軒以上のアートギャラリー・ショップがある。住民の約200人につき1軒のアートギャラリー・ショップという状況である。私もその美しさに魅了され、もう一度訪れたいと思っている。京都市の姉妹都市であるパリのポンピドゥーセンターも1969年に近現代芸術拠点を設ける構想が発表され、造られたものである。パリも大好きなまちであるが、パリの魅力の一つエッセンスを加えている。せっかく文化庁も移転してきたのであるから、新しい文化・芸術を発信できる場として芸大跡地も活用してほしい。きっとガイドブックに取り上げられ、たくさんの観光客が訪れる場となると思う。縦貫道路もすぐそばを通っているので、観光客も訪れることと思う。</p> <p>芸大跡地が文化・芸術の拠点として発展することは、高齢化率40%を超える洛西ニュータウンにとっても喜ばしいことだと思っている。若い人が寄ってくるまちになると思う。芸大跡地で活躍していく芸術家たちに市営住宅も活用してほしい。若い人が来る起爆剤となると確信している。</p> <p>ついては、こんなにすばらしい地を民間に投げ渡してしまうのではなく、京都市の財産を有効活用することを願う。</p>		
陳 情 者			
回付委員会	文教はぐくみ委員会		